

# 星と柱を数えたら

小川未明

青空文庫



あるところに、広い圃ひろはたけと、林はやしと、花園はなぞのと、それにたくさんな  
 宝たからもの物ものを持ってもいる人ひとが住すんでいました。この人ひとは、もうだい  
 ぶの年としよ寄りでありましたから、それらのものを、二人ふたりの息子むすこたち  
 に分わけてやつて、自分じぶんは隠いんきよ居よをおもしたいと思おもいました。

けれど、兄あにのほうも、弟おとうとのほうも、そろつて怠なまけ者ものでありまし  
 た。兄あにのほうは、一日いちじつ仕事じごともせず、ぶらぶらと家いえの中なかで遊あそんで  
 いました。そして、圃はたけへ出でて働はたらいたり、外そとを歩あるいたりすることが  
 だい  
 大きだいらいでありました。

弟おとうとのほうは、兄あにとちがつて、すこしも家うちにおちついて勉べん強きやう  
 をするといふことがなかつたのです。一日いちじつ、外そとを遊あそびまわつて、

日が暮れると家を思い出して帰ってくるというふうでありました。しかし、圃へ出て働くということは、兄と同じように大きらいではありません。

ふたり 二人の息子たちが、こんなふうに怠け者でありましたから、父親はほんとうに困ってしまいました。行く末のことなどが案じられて、どうかして、いい子供になつてくれぬものかと、そればかり心に念じていました。

ふたり いくら、二人に向かつて、「仕事をせよ。」といったり、また、「働けよ。」といつても、ぬかに釘でありました。

そのうちに、父親は、だんだん年をとつて、ますます二人のことを考えると気になつてならなかつたのです。ある日のこと、

ふと、父親ちちおやは、なにか考かんがえると、二人ふたりを自分じぶんの前に呼まびました。  
 兄あにおとうとと弟おもは、なにごとだろうと思おもつて、父親ちちおやの前まえにすわつて、顔かお  
 をながめました。

「私わたしは、もうだいぶ年としを老とつた。早はやく財ざい産さんをおまえがたに分わけ  
 てやつて、隠いん居きよをしたいと思おもう。けれど、そのかわりおまえが  
 たは、私わたしのいいつけたことをしなればならない。」と、父親ちちおや  
 はいいました。

「お父とうさん、私わたしたちのできることなら、なんでもいたします。む  
 ずかしいことではなれば。」と、兄あにおとうとと弟おもはいいました。

父親ちちおやは、兄あにに向むかつて、

「おまえは、外そとを歩あるくことがきらいだから、夜よるになつたら、空そらに

でほしかずかぞ  
出る星の数を数えてみれ。目に見えるのだけ、いくつあるか、当  
てたなら財産を分けてやる。」

ちちおや  
父親は、弟に向かつて、

「おまえは、毎日、出歩くことが好きだから、この村はずれか  
ら十里あちらの町に出るまで、電信柱の数が幾本あるか、  
かぞえてみれ。それを当てたら財産を分けてやる。」

ふたり  
こう、二人にいいました。兄と弟は、たがいにこんなことはぞ  
うさもないことだと答えました。

おとうと  
弟は、すぐに出発しました。兄は、日の暮れるのを待つて、  
外の木の下に腰をかけました。そして、よく晴れわたった夜の空  
を仰ぎました。青い、青い、奥底から、一つ、一つ星の光が輝

きはじめて、いつのまにか大空は、まいたように星がいっぱいになったのです。

兄は、一つ、二つと数えました。しまいには、指が疲れ、目が疲れましたけれど、我慢をして、「財産がもらえるのだ。」と思つて、かぞえました。すると、そのうちに雲が出てきて星の光を隠してしまいました。兄は、がっかりして、また明るる日の夜も、木の下にすわつて数えました。今度は、だいぶかぞえたかとおもひぶんかぜで思う時分に風が出てきて、木の葉をさらさらと鳴らしたので、ふとその方に気を取られると、せつかく数えたのを忘れてしまいました。兄は、がっかりして、木の下に倒れて眠つてしまいました。朝になると、小鳥が木の枝に止まつて、「もう夜が明けた。とつ

くに日が上つた。」といつて、笑つていました。

弟は、電信柱を一本ずつ数えてゆきました。はじめの間はひろい街道を歩いてゆきますので、遊んでいるようでしたが、しまいには、田の中といわず、寂しい山の中といわず、とても歩いてゆけそうもないところに建つていまして、それを一つ一つ数えることは困難でありました。

「どうして、こんなところへ、だれが柱を建てたろう。」と、弟は、感心しながら、すごすごと家へ帰つてきました。すると、兄が、やはり星を数えることに絶望をして、ため息をもらしていました。二人は、父親の前に出ました。

「お父さん、目に見えることすら、こんなに知ることは困難な



のです。これから心こころをあらためて勉べん強きょうします。「といいました。こうして二人ふたりは、まことにいい息子むすこたちとなりました。



# 青空文庫情報

底本：「定本小川未明童話全集 3」講談社

1977（昭和52）年1月10日第1刷

1981（昭和56）年1月6日第7刷

初出：「小学男生」

1921（大正10）年9月

※表題は底本では、「星《ほし》と柱《はしら》を数《かぞ》えたら」となっています。

入力：ぷろぼの青空工作員チーム入力班

校正：江村秀之

2013年12月5日作成

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫 (<http://www.w.aozora.gr.jp/>) で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

# 星と柱を数えたら

小川未明

2020年 7月13日 初版

## 奥 付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail [info@aozora.gr.jp](mailto:info@aozora.gr.jp)

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー <http://aohelp.club/>  
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。  
<http://tokimi.sylphid.jp/>